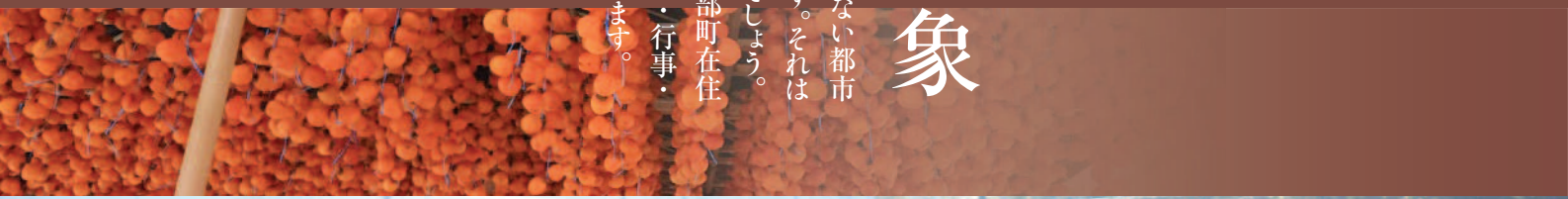


南部の印象

▼ある景観論の中に、「文化で結びつく仕掛けを持たない都市は、いずれ人が寄りつかなくなる」という言葉があります。それは文化が、その都市(場所)の印象を優れて喚起するからでしょう。

▼文化にもさまざまな分野がありますが、ここでは南部町在住の写真家と歌人の作品による共創を通じて、四季の風景・行事・作業景の3つに分けて「南部の印象」を伝えたいと思います。



上 干し柿——中館 克彦

下 稲刈り後のハセ掛け——西館 圭一



四季の風景



初冬の名久井岳
写真——西舘 圭一

朝靄で白きマフラーするごとく
名久井岳見ゆ墨絵のごとし

短歌——木村 ひな子



剣吉堤の桜
写真——有谷 賢司

天へ咲き水辺にはらり揺蕩へる
桜の命うるはしきかな

短歌——奥 ムツ子



朝の秋陽
写真——西舘 圭一

秋の陽の差し込む朝の水溜り
昨夜（よべ）の落葉を遊ばせる風

短歌——安ヶ平 千代

行事



頬紅の愛らしき子ら春を呼ぶ
大黒舞に拍手喝采

短歌—— 石塚 剛子

えんぶり

写真—— 西塚 正雄



虎舞の怖さに「明日は来ないで」と
LINEを願う涙目の孫

短歌—— 相馬 幸子

虎舞

写真—— 西塚 正雄



時頼のゆかりの寺を仰ぐ時
ライトアップに悠久の影

短歌—— 山下 幸枝

法光寺ライトアップ

写真—— 西塚 正雄

作業景



馬淵川の鮭漁
写真——有谷 賢司

しぶきあげ築場に群るる銀の鮭
「まだ来るぞ」とふ網引く声よ

短歌——奥 ムツ子



サクランボの雨除け掛け
写真——中館 克彦



ジュノハート
写真——中館 克彦

サクランボ作業の汗に「休みっこ」
掛けくる声に笑みがこぼるる

短歌——山下 幸枝

実りゆく小さな恋人思はせて
可憐な赤きジュノハートかな

短歌——山下 幸枝



虎渡町内会の花壇
写真——西塚 博康

植ゑ終へて腰に手をやり見渡せば
「いいねいいね」と真つすぐな畝

短歌——木村 ひな子